

男女共同参画推進WGだより 第2号

令和5年10月

はじめに

情報科学研究科男女共同参画推進WGは、昨年11月から12月にかけて、男女共同に関する研究・生活条件アンケートを行いました。最終的に37名の方々からご回答をいただきました。回答いただいた皆様におかれましては、ご協力ありがとうございました。

第2回では、そのアンケートの集計結果について、いくつかピックアップして報告します。詳細な集計結果をGoogle Driveにアップロードしましたので、研究科のHPの男女共同参画推進WGの学内限定ページのリンクからご参照ください（研究科構成員限定）。

基本属性

性別・年代だけでなく、職階・雇用形態も含め、ほぼ均等にご回答いただきました。一方で、クロス集計をしてみると、教授に比べて助教の方が女性の比率が大きい等、偏った部分も浮き彫りになりました。

キャリア中断歴

キャリア中断経験が「ある」ないし「これからありうる」と答えた人の9割近くが「助教」でした。理由として最も多かったものが「任期」であり、多くの助教の方々が不安に感じていることがわかりました。男女共に2番目に多かった理由は「出産・育児」でした。

職務と生活の両立

半数がキツイと感じることが「ある」と回答しました。多くの方が仕事と家庭の両立に困難を感じているようです。家庭の事情として「出産・育児」「家事」に次いで「自分の病気」が挙げられていました。職務上の事情としては「書類・事務」「業績要求」「会議時間」が三大要因となっているようですが、「ハラスメント」や「周囲の無理解」などの人間関係を挙げた人もいらっしゃいます。

施策について

女性限定公募についての意見が多く寄せられました。男女共に能力や業績の前に性別がたってしまうことへの違和感を覚えているようです。格差是正にとって必要な措置であることは理解しつつも、男女間の軋轢や教員の質の低下等様々な心配の声が寄せられました。また、女性教員比率のみにこだわるのではなく、その後のフォローの方が大事という意見もありました。男女を問わず働きやすい環境づくりが今後の課題となりそうです。

おわりに

今回のアンケートを通して、多様な構成員が困難や不安を覚えていることがわかりました。アンケートを取って終わりではなく、より働きやすい研究科を目指し、活動を続けて参ります。

男女共同参画推進WGでは、次回以降の本ニュースレターで扱って欲しい内容を募集しています。以下のフォーム（または右上のQRコード）から匿名で送信できますので、お気軽にお知らせください。

<https://forms.gle/S5rV3onFhZV2M6wy8>

連絡先

情報科学研究科 男女共同参画推進ワーキンググループ（☒is-danjo@grp.tohoku.ac.jp）
委員長 須川敏幸（東北大学 大学院情報科学研究科 研究科長補佐）

